

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	家政学部 生活福祉学科
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」において、理念・目的を下記の通り明記している。「生活福祉学科では、援助を必要とする人々を含むすべての「人」が、心豊かに生活できるよう「福祉」の問題を学び、考えることで、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力を養い、仏教精神を基にして他者と創造的に協働しつつ、自ら課題を発見し、高い倫理観と責任感をもって想定外の困難に対しても立ち向かえる、グローバルな人材の育成を目指します。卒業後には、多様化する福祉領域や地域社会、教育など、福祉や家政学についての深い素養を生かした分野で活躍できるよう期待しています。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。また、大学改革に従い、学科を発展的に改組し、養護・福祉教育学専攻として新たなスタートを切ることを予定している。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」に基づき、生活福祉学科の理念・目的は統一され、ホームページ<http://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/kasei/fukushi/mokuhyo.html>において公表するとともに オープンキャンパス等においても積極的にその伝達を図っており、大学構成員のみならず広く社会に向けて発信している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

平成28年度の大学のホームページ・アクセス数は643,189件であり、当学科のサイトへのアクセス数は21,990と前年度との比較で上昇している。また学生へは、『学習の手引』に明記するとともに入学時に学生に配布、ガイダンス時にアドバイザーより説明し、周知徹底を図っている。教育目標や人材養成目標を知っている学生の割合は、「学生生活実態調査」Q5によれば、平成14年度45.7%、平成16年度76.8%、平成28年度16.0%であった。全学平均では平成14年度35.7%、平成16年度32.5%、平成18年度21.1%で、全学平均に比べても低い。また平成28年度は、前年度に比べて減少している。ただし、平成28年度の調査から二択から三択に設問を変更しており、このことがこの減少に影響を及ぼしている可能性がある。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 個別の視点での入力不要
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 生活福祉学科では、教育目標はホームページで公表し、オープンキャンパス等においても積極的にその伝達を図り、広く社会に向けて発信している。また、学生には『学習の手引』に明記し、入学時に配布し、ガイダンス時に説明し、周知徹底を図っているが、教育目標や人材養成目標を知っている学生の割合は2014年度が36.8%、2016年度16.0%と半減したのは問題である。なお、大学の改革に従い学科を発展的に改組し、養護・福祉教育学専攻として新たなスタートを切ることからも、今後の改善に期待したい。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	家政学部 生活福祉学科
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」第3条 別表2の「学位授与方針」において、生活福祉学科の学位授与方針は下記のように明示されている。「家庭、学校、地域など社会のあらゆる場面で、すべての人が共に考えるべき課題である福祉について、生活を座標軸にすえて、養護教諭、社会福祉士及び介護福祉士資格の取得をベースに幅広く専門的な知識を養います。それらを基に、真に主体的な認知的能力や、的確かつ豊かな表現力を身につけ、グローバルな視点を伴う、他者との対話・相互理解や協働する力につなげます。最終的には、生涯を通じて学び続ける能力を築きます。(1)知識・理解: 広い社会的関心と教養を有し、家庭・学校・地域のもつ生活問題および生活福祉課題を的確に捉え、援助できるよう、福祉及び関連する医療、教育、労働、住環境等の現場や領域について深い専門的な知識を修得している。(2)技能・表現: 家庭・学校・地域で発生する諸問題に対して援助できる専門的な技術を修得し、基礎的理論と福祉現場における応用技術を統合した実践的な学習経験を積み重ねることで、主体的で批判的・合理的な思考を展開できるだけでなく、他者(異文化を含めて)との相互理解に努め、組織の中でも創造的に協働していける。(3)態度・志向性: 建学の精神を深く理解し、生涯にわたって学び続けるために、豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会的責務に対する自覚を有している。(4)統合的能力: 上記(1)～(3)の学修成果を総合的に活用して、自ら主体的に課題を発見し、その課題が想定外のものであっても、それを分析・解決することができる能力を身につけている。」

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

平成25(2013)年2月19日に「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」が制定された。学位授与方針は「学習の手引」に明示している。また京都女子大学HPに明示している。 <http://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/kasei/fukushi/mokuhyo.html>

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

生活福祉学科の「教育目標」「学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」は、大学ホームページ、「学習の手引」に明示され、大学構成員のみならず広く社会に公表されている。「学習の手引」は学生や教員に配布されており、大学構成員への周知を促すものである。履修ガイダンスやオリエンテーションなどでは、「学習の手引」を用いて教育目標、学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針などを学生に説明している。社会への公表は大学ホームページを中心に行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

「教育目標」、「学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」を、大学ホームページや「学習の手引」において大学構成員を含め社会に広く公表している。「学習の手引き」は毎年度学科の構成員により更新・編集され、新入生オリエンテーション、その他履修オリエンテーションを通して教員から学生へ説明が行われ周知を図っている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」第3条 別表3の「教育課程の編成・実施方針」において、教育課程の編成・実施方針を明示している。「学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や、情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、生活福祉学の全ての分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。専門領域の教育課程は、以下のようになっています。1年次では、広く福祉について学ぶとともに、介護、社会福祉、医療など、生活福祉に関する基礎的知識を身につけ、また発展的講義で、介護福祉、社会福祉、養護教育の学びを始めていきます。2年次では、発展的講義で、介護福祉、社会福祉、養護教育の学びを深めます。また、自分達でテーマを選ぶ演習形式での学びを通して、主体的に調査し考える力を養います。2年次演習では、情報技術、心理検査、社会と生活についても学びます。3年次では、発展的講義で、介護福祉、社会福祉、養護教育の学びをさらに深めていきます。各領域から研究分野を選択して演習を行い、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。」 2013年度からカリキュラムマップをつくり、4年間の学修の発展・深化のなかで、個々の科目・科目群がどのような位置づけなのかを示すため、「学位授与の方針」に掲げる能力への関与の大きさを表にして示している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
現状説明に記載の通り、規程として明示されている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
本学科では教育目標達成のために全セメスターで少人数演習科目を設置している。1回生の必修科目である生活福祉入門演習Ⅰ、Ⅱにおいて、アカデミック・スキルを身につけるための初年次教育が実施されている。2回生の必修科目である生活福祉基礎演習Ⅰ、Ⅱにおいて、3回生以降に専門的な学習を進めるための少人数教育が行われている。2回生の後期に3回生以降のゼミの学生配属が行われ、3回生前期より少人数による専門教育が行われ、卒業研究へとつなげている。教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実習等)を基本に学生の主体的参加を促す授業方法の具体化を図っている。生活福祉学科では各種資格に伴う実習が多く、またそれにむけての演習も含め学生が主体的に参加する科目が多い。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
学生生活調査において、「履修や学習方法について、適切な助言をしてくれたり、相談に乗ってくれる教員・職員がいる」の問いに「そう思う」「まあそう思う」と答えた割合は全学を対象として2016年33.4%とまだ改善の余地があるが、授業アンケートでは、「授業をきっかけにこの分野に興味や関心が深まった」の問いにおいて、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した割合が、平成27(2015)年76.8%、平成28(2016)年78.4%、平成29(2017)年85.3%。また、同アンケート「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」の問いにおいて、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した割合が、平成27(2015)年79.0%、平成28(2016)年81.3%、平成29(2017)年85.1%、といずれも数値が上昇しており、効果的な授業展開が出来ていることがうかがわれる。生活福祉学科では各領域でそれぞれ実習が多く、それにむけての演習も含め学生が主体的に参加を促す科目が多い。このことは教育目標の達成に大きく寄与していると考えている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

単位認定に必要な試験や出席等の要件については、京都女子大学単位修得要領に従っている。成績評価については、シラバスの「評価方法」の項目において、「評価項目」、「配分(%)」、「評価の観点」の小項目を設け、評価基準を明らかにしている。各教員はこれに基づいて厳格な成績評価を行うよう心掛けている。このようにして提出された各学生の成績は、担当事務部門・教務委員会によって確認・点検され、適切な単位認定が行われている。また、学生に通知された成績について疑義ある場合の問い合わせ期間を設け、成績評価が適切に行われるよう取り組んでいる。なお、転入、編入学等に際しての既習単位の認定に関しては、担当事務部門と本専攻との間で協議が行われ、教授会での審議を経て適切な対応が行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

現状説明に記載の通り、成績評価と単位認定は適切に行われている。また、授業アンケートQ2では、「私は履修に際してシラバスを読んで役立てた」の問いに「非常にそう思う」「そう思う」と回答した割合は、平成29(2017)年は57.8%であった。平成28(2016)年は48.1%、平成27(2015)年40.3%であり、学生のシラバス活用が増えており、成績評価の方法についても周知が進んでいると思われる。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

学生の学習成果を測定する評価指標として、本学科では、就職決定率、大学院進学者数、資格取得者数、教員免許取得者(教員就職者)数、中途退学者数等を重視している。本学科の平成29(2017)年度就職決定率は98.7%、大学院進学者数は1人であった。平成29(2017)年度卒業生の資格取得者は、介護福祉士受験資格9人、社会福祉士受験資格取得は40人、社会福祉士国家試験合格率(新卒)は52.8%と全国平均を大幅に上回った。教員免許取得はのべ86名であり、養護教諭一種免許48人、高等学校教諭一種免許「家庭」7人、中学校教諭一種免許状「家庭」6人、であった。教員就職数は、養護教諭25人(非常勤講師18人を含む)であった。中途退学者数は2人であった。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

現状説明に記載した数値から見て、本学科の学習成果はおおむね達成できていると評価できる。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」が平成25(2013)年2月19日制定された際に、学科会議において議論を重ね適切に制定している。「全学自己点検・評価委員会」が組織され、この委員会において、組織的に検証が行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 学習の手引を毎年更新しており、更新の際には学科教員間で内容の検討を行い、教育課程の編成や実施方針の適切性について確認している。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

<p>一般的なコメント(総評)</p> <p>教育目標達成に向けた授業形態(講義・演習・実習等)を基本に、学生の主体的参加を促す授業方法の具体化を図っている。なお、2013年度からカリキュラムマップをつくり、4年間の学修の発展・深化のなかで、個々の科目・科目群がどのような位置づけなのかを示すため、「学位授与の方針」に掲げる能力への関与の大きさを表にして示している。成績評価については、シラバスの「評価方法」の項目において、「評価項目」、「配分(%)」、「評価の観点」の小項目を設け、評価基準を明らかにしている。これらの教職員の取り組みは、2017年度の授業アンケート結果が示すように、学生へも伝わっており高く評価できる。</p>
<p>改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)</p>

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

<p>意見</p>

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	家政学部 生活福祉学科
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本学科では、家政学部「入学者受け入れの方針」のもと、生活福祉学科学士課程における学びを達成するための以下のように基礎的学力・素養・態度を求めている。

「1.介護福祉、社会福祉、養護・教育に強い興味と関心とを抱き、関連する教科の学びを実質的に修得できており、知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけている必要があります。

* 自己の考えを論理的に表現・説明できる能力の基礎が、特に必要です。2.福祉、養護にとどまらず、生活者の視点から人間の生活に関心を持ち、幅広い経験を通して学んだことも必要です。3.主体性や多様性、協調性を身につけていることも必要となります。4.修得した知識・技能を用いて社会に貢献する意欲も必要となります。」

これらは本学HP(<http://www.kyoto-wu.ac.jp/club/nyushi/senkou/kaseigakubu.html>)や入試ガイド等に明示している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

中途退学者率は2013年に1.5%であったが、以降は減少を続け、2017年度は0.6%となった。学科の教育方針と学生の学びの乖離が改善されている結果として考えられる。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

学生生活実態調査Q5「自分の所属する学科・専攻の教育目標や人材養成目標等を知っていますか」に「①知っている」と回答した割合では、2014年度は36.8%であったが、2016年度には16.0%であった。これは選択項目を2択から3択に2016年度より変更していることが影響している可能性があるが、今後更に周知を図りながら推移に着目していきたい。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

生活福祉学科では入試について受け入れ方針および入試方法について大学HP上で詳細な情報を公表している。オープンキャンパスにおいても学生の受け入れ方針を説明し、ミニ講義や学生による相談を受けている。平成27(2015)・28(2016)・29(2017)年度も募集人数を上回る志願者数があった。入学者選抜は、京女高等学校推薦入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般選抜、社会人特別選抜、一般編入学試験、推薦編入学試験、AO入試があり、いずれも学科の定めた入試科目や方法に従い、受け入れ方針に基づいて、公正かつ適切に行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

学生の受け入れ方針が公表され、オープンキャンパスを含め十分な周知が行われている。また公正かつ適切な入学者選抜が行われていると判断される。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本学科の学生募集および入学者選抜については、そのつど学部教授会にて審議・承認を得るという手続きをとっている。また、学生募集と入学者選抜の在り方については、本学科が掲げる学生の受け入れ方針に基づき、学部入試委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜学科会議に報告されるとともに、必要があれば審議している。これを受けて、学部選出教員1名が全学の入試制度委員会に出席し、本学部の個別的観点に基づく学生募集および入学者選抜の在り方について意見を述べ、全学的なレベルでの調整に貢献している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 以上の審議・手続きと内部チェックを通じ、学生募集および入学者選抜が、学生受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 生活福祉学科の「入学者受け入れの方針」として、大学ウェブサイトや募集要項で広く社会に公表している。2017年度の入学定員超過率は97.5%で、入学者のうちオープンキャンパス参加者の割合も94.9%と高く、入学前から求める学生像や修得しておくべき知識等を明示し理解した学生が入学していると思われる。また、収容定員超過率は105.6%であり、生活福祉学科は介護福祉士や社会福祉士の養成機関でもあり、厚生労働省からの定員管理を受けるので、収容学生定員が精度よく管理されている。なお、学生の受け入れの適切性については、学部入試委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜、学科会議に報告されるとともに、必要に応じて審議している。この審議結果をもって、学部選出教員1名が全学の入試制度委員会に出席し、本学部の個別的観点に基づく学生募集および入学者選抜の在り方について意見を述べ、全学的なレベルでの調整を行なっている。以上の現状把握から、学科の学生受け入れに対しては問題ないと評価する。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	家政学部 生活福祉学科
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大学として求める教員像は、「京都女子大学教員資格審査規程」により、それぞれの職階ごと定められており、教員組織については「大学案内」や大学HPに公表されている。大学の求める教員像は、本学の理念(教育方針)である建学の精神「親鸞聖人の体せられた仏教精神」に即し、教育目標の達成に向けて誠実である者で、「京都女子大学教員資格審査規程」に定める教育上の資格を有する人材である。本学科では、教育内容および研究領域をふまえ、教員組織の編制を定め教員人事に当たっている。選考の際には大学の規定に沿って、各部門から選出された選考委員による書類選考や面接が行われ、候補者を選定している。

教員組織は、平成29(2017)年度は、介護福祉(3名)、社会福祉(4名)、養護(4名)、生活(1名)の合計12の教員によって編制され、職階は、教授5名、准教授2名、講師2名、助教2名であった。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

大学として求める教員像は「京都女子大学大学院教員資格審査規程」に明示されている。資格課程で法令上必要となるカリキュラムの見直しや国家資格ごとの教員配置の見直しを行ってきている。平成30年度の改組に向けて、教員の教育分野の移動や定年退職者の後任確保、新たに必要となる人員の募集を行い、新教育体制へのスムーズな移行を可能とするよう図っている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

選考の際には大学の規定に沿って、各部門から選出された選考委員による書類選考や面接が行われ、候補者を選定している。教員組織は、介護福祉(3名)、社会福祉(4名)、養護(4名)、生活(1名)の合計12名の教員によって編制され、職階は、平成29(2017)年度は、教授5名、准教授2、講師3名、助教2名であった。男性5名女性7名である。専任教員1人あたりの学生数は平成27度(2015)年度27.0人、平成28年度(2016)年度26.5人、平成29年度(2017)年度33.8人になっている。社会福祉士・介護福祉士の養成に関わる教員要件の厳格化に対応していくために助教2名を位置づけている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

平成29(2017)年には近畿厚生局による介護福祉士養成施設指導調査を受けており、養成が適切に行われていることが確認されている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

専任教員1人あたりの学生数は平成27(2016)年度27.0人、平成28(2017)年度26.5人、平成29(2018)年度33.8人と増加している。平成28年度退職者の補充がなされないまま欠員1名で経過したことによると考えられる。研究教育体制の改善が求められる。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 「京都女子大学教員資格審査規程」に明示された資格基準、手順に則って行い、募集は「公募」「学内公募」によって実施されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 現状説明に記載の通り、規定に基づき適切に実施されている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 各教員は研究活動報告書を毎年提出している。各教員の業績はWeb上の「教員業績データベース」で随時入力が可能であり、ホームページ上の教員紹介から閲覧できるようになっている。毎学期末に「授業アンケート」を実施し、学生の意見を参考に教員自らが資質の向上を図っている。教授会等においてFD研修会への参加を促しているほか、またハラスメント防止に取り組んでいる。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 現状説明に記載の通り、教員個人として資質向上を図っており、また大学の主催するFD研修会等への参加も促している。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教員は、毎年、研究活動、研究成果報告書を大学に提出している。各教員の業績はWeb上の「教員業績データベース」で随時入力し、ホームページ上の教員紹介から閲覧できる。生活福祉学専攻では、学科が毎年発行する紀要『京都女子大学生生活福祉科紀要』に、研究活動報告を掲載するなど教員資質の向上を図るための方策を講じている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

生活福祉学科では、平成29(2017)年度の教員組織は、介護福祉(3名)、社会福祉(4名)、養護(4名)、生活(1名)の合計12名の教員で編制され、職階は教授5名、准教授2、講師3名、助教2名、男性5名女性7名である。なお、社会福祉士・介護福祉士の養成に関わる教員要件に対応するために助教2名を位置づけている。教員個人としての資質向上を図っており、また大学の主催するFD研修会等への参加も促している。教員は、毎年、研究活動、研究成果報告書を大学に提出している。各教員の業績はWeb上の[教員業績データベース]で随時入力し、ホームページ上の教員紹介から閲覧できる。以上の現状分析により、本学科の教員と教員組織は問題ないと評価できる。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見